

## 平成26年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(東員町)の概要

2月6日(金)に東員町総合文化センターで「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「松の会・こども歌舞伎」の皆さん11名に、東員町長を加え、活動内容や活動への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



### 【参加者からの発言】

代表から「松の会・こども歌舞伎」の活動について紹介していただいた後、メンバーの皆さんから、自己紹介をしていただきました。

(活動紹介)

○「松の会」は、東員町長深が、歌舞伎の名優「七世松本幸四郎丈」生誕の地であることから、歌舞伎を伝承し、地域文化の振興に寄与することを目的に、平成6年に設立された。平成7年には、「こども歌舞伎」を結成し、平成8年から、年1回の公演を継続して開催しており、来年度で20回目を迎える。

**Q. 「こども歌舞伎」の団員(子ども達)に、歌舞伎をやっていてよかったことと、歌舞伎の魅力の2点についてお聞きしたい。**

○歌舞伎を通して、他の中学校の友達が増えた。歌舞伎の魅力は、独特なセリフや動きにあると思う(高校1年生)。

○歌舞伎の公演でお客さんがたくさんいるときは、とても緊張するが、公演を終えたときの拍手は本当に嬉しくて、歌舞伎を続けていきたいと思う。歌舞伎の魅力は、かなわない恋などの悲しさを伝えることができると思う(中学3年生)。

○「こども歌舞伎」では、挨拶の仕方や礼儀作法など、大人になってからも役立つようなことを教えてくれるので、すごく勉強になる。歌舞伎は自分では経験したこと

がない役を演じることができるので、そこが魅力だと思う（小学5年生）。

○歌舞伎を習うことで、昔のことを勉強できてよかった。難しいセリフを知ることができるのが歌舞伎の魅力だと思う（小学5年生）。

○歌舞伎は動きが決められているので、歌舞伎を続けていると我慢強くなる。今年の公演では「明神」という役をやるので、掛け合いの面白さを伝えたい（小学4年生）。

**Q. 「松の会」の方と指導者の方に、活動や指導をされていてよかったこと、楽しかったことについてお聞きしたい。**

○東員町の「こども歌舞伎」は、他の団体と比べ歴史が浅く、平均年齢が低いが、平成24年に石川県で開催された全国子供歌舞伎フェスティバルでは堂々たる演技をしてくれた。子ども達の成長をつぶさに見られて、本当によかったと思う。

○公演当日の子ども達の姿は、本当に感動する。子ども達の努力はもちろんのこと、家族の皆さんの努力や先生の叱咤激励の賜物だと思う。子ども達にとっても、何かを達成したということが大人になってからも役に立つと思う。

○去年は団員の2人が受験生であったが、勉強だけに偏ることなく稽古も続けてくれたので、勉強と歌舞伎を両立させるという、人間としての一つの道を得ていただいたのではないかと思う。

**Q. 保護者の方に、子ども達の変化についてお聞きしたい。**

○長男、次男は既に成人しているが、「こども歌舞伎」に入団していた。長男、次男をみていると、普通の人にはやれない歌舞伎をやれるんだという大きな自信になっていると思う。

○2人の孫がお世話になっている。孫にはいろいろ注意してきたが、長男は、今では何も言わなくても、目を見張るような演技をしてくれるようになった。

○2人の子どもがお世話になっているが、先生からいろいろ言われてもケロツとしているので、打たれ強くなったと感じる。また、家に帰ってからも共通の話題があるので、仲よくやれていると思う。

**Q. 「松の会」の方、指導者の方、保護者の方に、今後の飛躍に向けた課題についてお聞きしたい。**

○団員を増やしていくためには、親に数ある習い事の中から選んでもらう必要がある。まずは公演を見に来て興味を持ってもらうことが前提になるので、公演の際は音声ガイドなどのわかりやすい解説があるとよい。

○現在、卒団した7名くらいの方にスタッフとしてお手伝いしていただいている。これからも卒団する子ども達には、スタッフとして関わってもらいたい。

**Q. 「こども歌舞伎」の団員（子ども達）に、歌舞伎における今後の目標をお聞きしたい。**

○今年演じる役は、舞台の途中でキャラが変わるところがあるので、そのキャラの違いをお客さんに感じ取ってもらえるように頑張りたい（高校1年生）。

○公演の際に後ろの席の人でもはっきりと聞こえるように大きな声を出すことと、迫力が出るように大きな動きを心掛けていきたい（中学3年生）。

- 毎年の発表会を大切にして、悔いのないよう一生懸命舞台で演じたい(小学5年生)。
- 頑張っているということが伝わるように、大きな声を出し、動きを大きく見せたい(小学5年生)。
- 今年の公演では、笑いを誘うセリフが多いので、しっかりと笑いを取りたい(小学4年生)。

### 【町長の発言】

- 子ども達の活躍が大人を元気付けているため、「こども歌舞伎」は東員町の誇りであり、宝である。
- 地域には縦社会がなくなってきたが、「こども歌舞伎」には小学生から高校生までの子どもの縦社会があるため、今後もこうしたつながりを大事にしてほしい。

### 【知事の発言】

- 卒団した後も、スタッフとして関わる場があると、仮に大学や就職で県外に出て行っても、また故郷に戻ってくるインセンティブになるので、卒団した後も関わっていける仕組みを作ることは大切だと思う。
- 子ども達の自己肯定感につながる経験を提供する「こども歌舞伎」のすばらしさと、子ども達の成長を、多くの地域の皆さんで守り育てていることのすばらしさを実感した。
- 「こども歌舞伎」のすばらしい活動を多くの人に知ってもらって、「こども歌舞伎」が長く持続可能に継いでいけるように、私たちもしっかりと応援をしていきたい。



「松の会」は、日本古来の伝統芸能・歌舞伎を伝承、地域文化の振興に寄与することを目的に、故七世松本幸四郎丈の顕彰に関する事業に加え、「こども歌舞伎」の育成・公演等に取り組んでいます。「こども歌舞伎」の団員である小学生から高校生が出演した、今年度の「第19回東員町こども歌舞伎公演」には、約650名の方が来場しました。